エンパワーするNGO YWCA
大阪YWCA
6
2025
http://osaka.ywca.or.jp

YWCA(Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

からまり合う抑圧と暴力
抗(あらが)うことをやめない私たちのプライド

山城　莉乃

私はコザ市（現沖縄市）で生まれ育った。素晴らしい歴史と文化をもつこの地域は、よくも悪くも異国情緒あふれる街として知られている。様々な国籍・文化の方々が暮らす街としてのよさはもちろんあるはずだが、往々にして異国情緒の「異国」は主にアメリカを指し、そして米軍を指す。米軍はアメリカの軍隊であり、米兵はその国民であるが、軍文化は独特であることは、アメリカでは当然誰でも知っていることだ。つまり、沖縄でみる「アメリカ」はミリタリーカルチャーであり、とても限られた「アメリカ」なのである。迷彩服、軍用車両、基地周辺にできる歓楽街、多くの特権を持ちわがもの顔で基地内外を自由に行き来し暮らす軍人・軍属。これらはまさに軍隊特有の文化である。一般のアメリカ人にとっても奇妙に見えるこの状況は、悲しいくらいに鈍感になっている私たちにとっては当たり前の光景であり、これがアメリカだと憧れを持つものさえいる。

沖縄を訪問したアメリカ人大学生から「生まれて初めて米軍基地を見た」と、驚きと戸惑い、申し訳なさの入り混じった様子で言われたことがある。それも一回ではない。そんなことを聞かされるたびにハッとする。あらゆる事件や事故を起こし、騒音、水、土壌などへの様々な環境破壊の原因を作り、どんなに琉球・沖縄の土地、領域、尊厳、人権をけがしても特権だらけの法に守られ、〝良き隣人〟だからその存在を受け入れろと権力で押し付けてくる。私たち琉球・沖縄人はそんな暴力を当然のように受けてきた一方で、米軍基地を見たことがないアメリカ人がいる。

このような暴力が琉球・沖縄には常態化している。解決されていくどころか、日米の軍隊は増え、その機能が強化されている。結果、琉球・沖縄に対する暴力はさらに増えている。この日常の根底には幾重にも重なり、交わる差別・抑圧がある。日米両国による植民地・帝国主義の展開とその影響。今もなお琉球・沖縄の犠牲が前提にある日本の国策に見る人種差別、どこを向いても蔓延している女性蔑視。琉球人女性は、少なくともここにあげた3つの抑圧全てをうけ、暴力の対象となっている歴史と事実が沖縄にはある。

しかし、私たちには暴力のない世界で生きる権利がある。痛くても苦しくても、声をあげ、立ち上がることを琉球・沖縄女性はあきらめない。

やましろ　りんだ
地元で短大を卒業後、中学教員として4年間働く。その後、ハワイ州立大学に編入し、社会運動、ジェンダーについて学ぶ。ネイティブハワイアンとの出会いや学びから琉球人としての自分を取り戻す。現在は大学で非常勤講師として教鞭をとる傍ら、琉球・沖縄を英語で発信できる人材育成を目指すスクールを主宰。AIPR（琉球弧の先住民族会）副代表。

ディープな大阪から見る女性と人権

沖縄と大阪を結んで女性の人権とジェンダーの課題を考える

2022年度から準備を始めた、大阪YWCAと沖縄YWCA共催プログラムの最終章、大阪フィールドトリップが3月21～23日に行われた。1年目の2023年には、素敵な女性講師6名を迎え、人権やジェンダーについてYWCAならではの視点から、それぞれの地域特有の課題を知った。

2025年2月の沖縄フィールドトリップでは、現地に出向き、人と出会う大切さを痛感した。今回は大阪ならではのエネルギーを感じ、沖縄や韓国を始めとする様々なルーツを持つ人々の、この地に根を下ろした生活に触れる機会となった。

万博に翻弄された町

1日目に訪れた釜ヶ崎は、全国各地から仕事を求める人々が集まり、最盛期には2万人もの日雇い労働者が暮らす町だった。今この町を象徴するのは、格安の宿を求める外国人旅行者と高齢化や傷病で働けなくなった人を囲い込み搾取する貧困ビジネスだ。この地で30年以上労働者のための生活相談や炊き出しを行う米加田周子（めかたちかこ）牧師から、万博によって作られ、万博によって消されようとしている町の過去と現在を聞いた。そこから見えてくるのは労働者を「ひと」ではなく「モノ」として扱う戦前から続く政治の有様だ。

いこい食堂で炊き出しの準備

複合差別～女性＋民族

2日目は鶴橋の国際市場からスタートした。特定非営利活動法人コリアNGOセンターの方の説明を聞きながらの美味しそうなキムチやきらびやかな民族衣装の店が並ぶ市場を通る。しかし、卒業や成人式、結婚式などの節目ごとに在日韓国朝鮮人女性はチマチョゴリを着るかどうかの重い選択を迫られる、という説明を聞き、民族衣装を着を誇らしささえも奪われる差別の構造に気付かされた。次に訪れたいくのパーク（パンオプ）では方清子（ジャ）さんから、在日朝鮮人女性の立場から平和と人権を考えるというテーマで話を聞いた。この周辺でも一時激しかったヘイトスピーチやヘイトクライムは民族だけではなく女性が攻撃の対象となる複合差別であり、「慰安婦」問題をめぐる歴史否定と被害者の存在を無視、侮辱する現在の性暴力容認社会と通底しているという指摘に深くうなずかされた。

コリアタウン

夜は「NPO法人CHARM」で滞日外国人の医療支援を行っている青木理恵子さんから「異国で健康に生きるコツ～法律の壁の中で生き抜く女性たちの力～」と題したミニレクチャーがあった。盛り沢山の夜の締めくくりはゴスペルシンガー新井深絵さんのサプライズ登場。「サランヘヨ」「愛してる」と声をそろえて皆で熱唱した。

CHARMの青木理恵子さん

困難を抱える女性に寄り添う

3日目は女性の心と体をトータルにサポートする「ウィメンズセンター大阪」の高見陽子さんと「京都YWCA自立援助ホームカルーナ」の辻川さとみさんによるトークセッション。両施設は困難を抱える女性に寄り添い、問題解決とより良く生きることを目指して共に歩む活動を行っている。お二人からそれぞれの現場から見える現状と課題、そして希望を共有することができた。

様々な市民団体の方と出会い学ぶ機会を持った。CHARMの青木さんも大切であると思うこととして「市民団体は人と人が直接人格で出会う機会を設ける」「市民運動が横につながり協力し合う」をあげている。私たちYWCAも微力ではあるが、変革の力の担い手となることを改めて確認できた3日間となった。

（文責編集部）

最終日：ツアーの仲間と思いを共有

ぶどうの木 229

ありがとうの日記

生前の母はYWCAの活動に熱心だった。「もし神様を知らなかったらママはどうやって生きてきたのかなぁ」これが母の口癖だった。いつも神様に感謝していた母に倣いたい気持ちもあり、ある日「ありがとうの日記」を書き始めた。心が温かくなった事や神様に感謝した事のみを綴る日記だ。最初は、家族の健康、日々が守られた等であったが、日常の些細な出来事にも恵みだなぁと感じられた時は嬉しくなった。ふと、あれ？と思った。では私が数えなかった部分、記憶に残らなかったあの時は？もしかすると、私はいつも数えきれない恵みでずぶ濡れだったのかもしれない。知ることもなく数えられなかったのだと思うと無性に恥ずかしくなった。ありがとうの日記は、ちっぽけなありがとうしか言えない私でも慈しんで下さる神様に感謝する日記となった。

（会員　安田　美穂子）

大阪YWCA 女性エンパワメント部
Rise Up School Visits（RUSV）の取り組み

2025年度 メンバー募集中

107年前、”東洋のマンチェスター“とも称された大阪の工場群に、地方から働きにきた若い女性たちを支援するために、大阪YWCAは設立されました。多くの少女たちが”女工哀史“で悪名高い紡績工場などで酷使されていたあの時代に、安心安全な宿舎を提供すると共に、夜間女学校で彼女たちをエンパワーしたのです。21世紀の今、大阪YWCAは違う形で若い女性のエンパワメントに取り組んでいます。その大切な一つが、RUSV＝ライズアップ・スクールビジッツです。

概ね25歳までの若い女性が、ジェンダー問題や性と生殖の健康と権利に関して学び、包括的性教育のワークショップを中高生対象に行うプロジェクトです。

中高YWCA（ミッション校での部活としてのYWCA）を中心に始めましたが、昨年度は大阪YWCA本館近くの公立中学校でもワークショップ実施の機会に恵まれました。

自分たちに年齢の近いお姉さんたちが来てくれることで、中高生が問題を引き寄せやすくなること、ワークショップを作り上げて実施することでボランティアメンバーたちもエンパワーされること、この両面効果がポイントです。

これまでに実施してきたワークショップのテーマは、

＊私のからだは私のもの
＊同意のある関係性づくり
＊ルッキズム…などです。

これらを通して、中高生や若い女性たちが、自分の人生の決定者として自分の足で立つこと、声を上げる力をつけることを願っています。

Rise Up！は「少女たちよ、立ち上がれ！」の意味で、世界YWCAが提唱しており、日本では数か所の地域YWCAがRUSVに取り組んでいます。最終的な目標は、「変革を起こすためのリーダーシップ養成」なのです。

（女性エンパワメント部）

YWの窓

女性のこころの発達を考える連続講座
「夫や恋人との関係を考える ～コントロール関係への対応と予防～」

4月12日（土）、本館にて、井ノ崎敦子さん（公認心理師／臨床心理士／徳島大学キャンパスライフ健康支援センター講師）を、講師にお迎えし、「コントロール関係について学ぶ～カップル親子・友人～」と題する公開講座が実施された。

講義内容は、コントロール関係の特徴、コントロール方法、コントロール関係から自由になる方法、さまざまな関係でのコントロールなど、広範にコントロール関係を網羅した概要であった。

意外だったのは、「コントロールをする人は、本気で相手のためと想っている人が多い。そういう意味で、多くの人がコントロールする側になり得る。コントロールする人は、過去にコントロールされていてその人間関係が身体に染みついている人が多い。」ということであった。

コントロールされていると感じる当事者はもちろん、人間関係や自分を見つめ直したい人にも有益な講座ではないだろうか。

参加者からは活発な質問が挙がり、関心の高さがうかがえた。

5月17日から始まるピアサポートの会は、カウンセラーによるミニ講義と参加者同士の話し合いの会であり、原則第二土曜日午前10時半からで計8回実施される。毎回テーマが異なり、今後も単発参加申し込みが可能である。

（会員　七条　聡美）

Books 編集部文庫

『自省録』
マルクス-アウレーリウス
岩波文庫

「哲人皇帝」と言われたローマ皇帝マルクス・アウレーリウスの思索や内省の言葉を書き留めた本。何だか難しそうに感じるが日記のようなものなので、どこから読んでも大丈夫。「何かする時嫌々ながらするな、利己的な気持ちからするな、無思慮にするな、心に逆らってするな、君の考えを美辞麗句で飾り立てるな」「あたかも一万年も生きるように行動するな」など現代人にもささる言葉が並ぶ。

聖書の言葉

わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。

（ローマ書5章5節b）

大阪・京都＋オンライン 世界YWCA日集会

2025年4月26日(土)13時半～15時半「世界YWCAデー」集会を京都YWCAと共同開催、それぞれの会館での対面参加は京都10名、大阪12名、オンライン参加10名だった。

冒頭に、世界YWCA会長からのメッセージを読み上げた後、京都・大阪それぞれから、日本YWCAの複数の地域YWCAが協働で取り組むプログラム助成(LA: Local Action)第3期を受けて実施したプログラムについて報告した。前半は京都から、横浜・福岡YWCAと行った「多様な人々が集う居場所づくり」について、後半は大阪から「沖縄、大阪のフィールドワーク」について報告し、グループに分かれて感想や意見を述べ合い、最後は全体での分かち合いを行った。京都では成果物として「セーフスペースガイドブック」を作成、この日も刷り上がったガイドブックを使ってミニワークショップ体験もあり、新たな発見があった。

京都・神戸・大阪YWCA交流会に始まる、関西3市でのプログラム実施は世界YWCAデー集会が昨年度に続いて2度目。次年度はどんな風に3市が繋がるか、世界YWCAデー集会の持ち方は？と、他の地域YWCAとの繋がりが進むといいな、と思った一日だった。(会員　津戸　眞弓)

大阪YWCA日本語教師会
第三国定住難民のための日本語教育支援はじまる

5月から第三国定住難民*第16陣11名を迎え、日本語教育を実施することになりました。難民事業本部(RHQ)からの委託プログラムです。

昨年9月に来日し、関東でRHQによる日本語教育を含む定住支援プログラムを受けた後、就労予定の地域へ移住。就学・就労しながらYWCAで日本語のレベルアップを目指します。目標は、日本で自立した生活を送るために必要不可欠な日本語力を身につけること。単なる語学習得ではなく、職場や学校、地域社会で円滑なコミュニケーションが図れるよう、実践的な運用力も鍛えていきます。

先日行われたオリエンテーションで初めて顔を合わせました。終始和やかな雰囲気の中、クラス分けテストを実施しました。今後、習熟度に応じたクラスで学習を進めます。

教える・教えられる関係だけではなく、共に学び合いながら、信頼を築いていきたいと考えています。

(職員　川崎　仁子)

*第三国定住難民

難民キャンプ等で一時的な庇護を受けた難民を、当初庇護を受けた国から新たに受入れに合意した第三国へ移動させること。日本は2010年から継続的な受け入れを実施。

(難民事業本部HPより)

YWCAへようこそ。楽しく学んでいきましょう。

ご協力ありがとうございます

[25／3／1～25／4／30]敬称略順不同

■賛助費
朝岡　千晶　井口　和子　石井由佳子
石神佐知子　宇都宮ゆかり
大平美保子　河野　栄子　國里　順子
齋藤　和人　瀧内　純子　津田　基子
徳平　真弓　西名　貞子　花岡千代美
藤田　恭子　松田真理子　水　尚子
望月　文子　森口美智代　八木みゆき

■会員維持費
川崎　仁子　笹部　昌子　谷川いづみ
中島理依子

■寄付
千里
金　香百合

女性エンパワメント部
植原　昭子　幕谷安紀子　横内いづみ

その他
片山　隼亮　前川　契子

■募金
5口　46、003円

新入会員歓迎!!

☆**梅田**
秦　榮和　上田乃生子
安田美穂子

☆**千里**
木村　志保　春本美恵子
吉村　京子

3月運営委員会報告

【報告】▼グループパレット　1月、2月とお楽しみ例会開催、2月は今後の体制について話し合い。**▼事業部**　日本語教師会(公財)難民事業本部より、第三国定住難民への日本語支援依頼受け決定。

【協議】　1日本YWCA助成LA(Local Action)沖縄との協働　大阪フィールドツアーについて　2 3／1定期会員集会　午前の集会および午後の付帯プログラムふりかえり　3 4／26実施予定の世界YWCA日集会タイムスケジュール、担当について　4 2025年度役員選挙

4月運営委員会報告

【報告】▼財務委員会　全体としては、募金目標を達成。**▼人事委員会**　富田美幸さん4／1付採用。**▼女性エンパワメント部**　井ノ崎敦子公認心理士による女性のこころの発達を考える連続講座開催予定

【協議】　1 2025年度各部委員会組織、および各外部団体担当について　2 2025年度の運営委員会、各プログラムの進め方について　3 世界YWCA日集会当日の流れ、役割確認

訃報

会員　妹尾　弓子さん
2024年7月逝去(102歳)

発行所　大阪YWCA　編集発行人　津戸　眞弓　〒530-0026 大阪市北区神山町 11-12　TEL 06－6361－0838　FAX06－6361－2997